

質問4. 所属する学会についてお聞きます <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	日本ホスファターゼ研究会
※	肝臓学会
※	日本バイオインフォマティクス学会
※	日本薬学会
※	日本植物学会、日本植物細胞分子生物学会、日本育種学会、日本農芸化学会、植物化学調節学会
※	日本農芸化学会、酵母遺伝学フォーラム
※	日本血液学会
※	日本放射線影響学会、日本放射線腫瘍学会生物部会
※	日本内科学会、日本血液学会、日本病理学会
※	ASCB
※	日本薬理学会 SfN
※	日本ウイルス学会
※	亜鉛栄養治療研究会
※	日本ウイルス学会
※	神経学会、Cell death学会、神経病理学会
※	日本化学会
※	日本解剖学会
※	日本病理学会、日本脳神経外科学会、日本がん転移学会、日本ヒト細胞学会
※	日本ウイルス学会
※	日本内科学会
※	生物工学会、動物細胞工学会
※	日本蛋白質科学会、日本薬学会
※	日本薬理学会、日本生理学会
※	日本糖質学会
※	日本放射線影響学会
※	日本ゲノム編集学会
※	臨床ストレス応答学会
※	日本生物物理学会、日本蛋白質科学会、ケミカルバイオロジー学会
※	日本糖尿病学会
※	日本実験動物学会
※	日本動物学会
※	農芸化学会、食品免疫学会、乳酸菌学会
※	日本動物学会、日本蚕糸学会
※	日本バイオインフォマティクス学会
※	日本神経化学会 日本組織細胞化学会 国際神経化学会 ほか
※	日本人類遺伝学会
※	日本体力医学会
※	日本生理学会、日本肥満学会、日本内分泌学会、日本糖尿病学会
※	日本神経化学会
※	日本病理学会
※	日本RNA学会
※	日本蚕糸学会、日本応用動物昆虫学会
※	日本農芸化学会
※	日本水産学会、日本農芸化学会
※	感染症学会、性感染症学会、細菌学会、ウイルス学会、ゲノム微生物学会、臨床ウイルス学会
※	クリニカルバイオバンク学会
※	日本RNA学会、日本ゲノム微生物学会、極限環境生物学会
※	日本農芸化学会 日本時間生物学会
※	日本薬学会
※	神経免疫学会
※	日本生理学会
※	日本骨代謝学会アメリカ骨代謝学会
※	再生医療学会
※	日本農芸化学会、日本栄養食糧学会、日本毒性学会、日本フードファクター学会
※	日本生理学会
※	日本動物学会、日本進化学会
※	日本動物学会
※	日本微生物生態学会、日本農芸化学会
※	情報処理学会
※	日本環境変異原学会
※	極限環境生物学会、微生物生態学会、酵素工学研究会、
※	日本骨代謝学会、日本炎症再生学会、日本血管生物医学会

質問4. 所属する学会についてお聞きます <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	ない
※	日本ミトコンドリア学会、日本RNA学会
※	日本農芸化学会
※	日本植物学会
※	日本時間生物学会
※	蛋白質科学会
※	再生医療学会
※	日本エピジェネティクス研究会、環境ホルモン学会
※	日本染色体遺伝子検査学会
※	バイオインフォマティクス学会
※	日本骨代謝学会アメリカ骨代謝学会
※	日本放射線影響学会
※	日本薬学会
※	日本ゲノム微生物学会、日本進化学会、日本農芸化学会
※	日本衛生学会
※	実験動物学会、繁殖生物学会、
※	エピジェネティクス研究会
※	日本解剖学会日本骨代謝学会
※	日本ゲノム変種学会、日本植物細胞分子生物学会
※	日本再生医療学会、日本バイオマテリアル学会
※	American society of plant biologists
※	日本植物病理学会
※	日本動物学会、日本水産学会
※	生理学会
※	日本水産学会日本ゲノム編集学会
※	日本再生医療学会、日本人類遺伝学会
※	日本動物学会
※	日本RNA学会
※	日本RNA学会
※	日本農芸化学会、日本植物学会、日本植物細胞分子生物学会
※	日本農芸化学会、微生物生態学会、日本腐植物質学会
※	日本循環器学会
※	日本農芸化学会、日本エピジェネティクス研究会
※	日本微生物資源学会
※	日本宇宙生物科学会
※	日本進化学会、日本人類学会、日本霊長類学会
※	人工知能学会
※	日本筋学会
※	日本農芸化学会日本育種学会
※	日本ゲノム編集学会
※	日本植物学会
※	バイオイメーjing学会
※	日本農芸化学会、日本育種学会、日本ゲノム編集学会
※	病理学会、がん転移学会
※	日本畜産学会、日本養豚学会
※	日本RNA学会
※	日本蛋白質化学会
※	日本RNA学会
※	日本血液学会
※	日本体力医学会
※	日本骨代謝学会基礎菌科医学会
※	日本RNA学会、日本進化学会、RNA Society、American Association for the Advancement of Science (AAAS)、American Society for Microbiology (ASM)
※	日本神経化学会
※	日本人類遺伝学会
※	日本麻酔科学会、日本臨床麻酔学会、日本心臓血管麻酔学会
※	日本化学会
※	日本農芸化学会、日本応用動物昆虫学会
※	日本実験動物学会
※	日本環境変異原学会 EMGS(北米変異ゲノミクス学会)
※	日本放射線影響学会、日本保健物理学会
※	日本畜産学会
※	日本農芸化学会

質問4. 所属する学会についてお聞きます <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	日本RNA学会
※	日本生理学会、日本病態生理学会
※	日本遺伝カウンセリング学会
※	内科学会、循環器学会
※	日本畜産学会
※	蛋白質科学会、結晶学会
※	日本ゲノム微生物学会日本農芸化学会
※	Cell Death学会
※	日本蛋白質科学会、日本化学会
※	エピジェネティクス研究会
※	日本農芸化学会、日本糖質学会
※	日本放射線影響学会
※	日本血液学会
※	日本物理学会
※	日本バイオイメージング学会
※	なし
※	日本植物学会NGS現場の会
※	日本農芸化学会、日本土壌肥料学会
※	日本ミトコンドリア学会
※	日本薬学会、日本RNA学会、日本核酸化学会、日本核酸医薬学会
※	日本農芸化学会Pacific Congress on Marine Science and Technology (Pacon)
※	日本毒性学会
※	日本蛋白質科学会、日本薬学会、日本核磁気共鳴学会
※	酵母遺伝学フォーラム
※	日本動物学会
※	所属なし
※	日本RNA学会
※	日本循環器学会、日本小児循環器学会
※	日本RNA学会
※	日本進化学会

質問5-2. シンポジウムについて <複数回答可> (テーマが偏っている)

回答者番号	テーマが偏っている記述
※	似たような内容のものや、はやりのキーワードを並べて一貫性のない発表の寄せ集めたものがあった。
※	神経病態が精神疾患に偏っている
※	毎年、同じ先生または研究グループのメンバーがオーガナイズしているため、シンポジウムの内容が偏っているケースがある。オーガナイザーの選定方法を大きく見直すべきだと感じている。
※	医学・疾患生物学に寄りすぎ
※	医学的なテーマが多い
※	生殖細胞のテーマのシンポジウムがなくて残念
※	神経系がない
※	クロマチン、エピジェネティクス関係のものが多いように感じた反面、メカノバイオロジーのような近年注目されつつある分野についての扱いが少ないように感じた
※	毎年金太郎飴のように同じようなシンポジウムがちよっとだけ名前を変えて発表者も同じ。
※	神経科学が少なすぎます。完全に内輪のセッションが多く見られました。
※	性分化、進化などが少なく感じた
※	医療、動物に関するテーマに偏っていると感じた。
※	植物や微生物に関するテーマが少なすぎる。比して動物のテーマが細分化されすぎている。(植物や微生物がそれだけ活発ではないのかもしれないが・・・)
※	開催されているシンポジウムは重要なテーマのものが多いが、微生物関連の研究成果を取り上げたテーマがほとんど無いので、微生物に関連するテーマも取り上げた方が良いと思う。
※	シンポジウムやワークショップ、ポスター発表すべてにおいてバクテリアのテーマが少なかった印象である。
※	ワークショップとシンポジウムを別枠にする意味が一般の参加者にはわかりにくく、ワークショップの多様性に対してシンポジウムの内容が偏っているように感じます。
※	基礎系の学会なのに、応用に絡んだテーマが多すぎる
※	微生物、植物に関連したテーマがあっても良いように思った
※	植物系のテーマが少なかったですね。
※	参加しなかった
※	シンポジウムとワークショップの違いがわからないので、分けずに公募しては
※	毎回同じような顔ぶれ、同じようなテーマ
※	テーマが分子研究に偏っている。もうちょっと生物の面白い話があれば楽しくなるかもしれません。例えば虫の会に参加している人数を数えれば、参加した人の数の多さから、虫以外の研究をしている人も大勢集まっているのを分かります。皆もうちょっと生物の話の話を聞きたいんじゃないですか？例えば無脊椎動物の会とか作ってみれば、分子の話から飽きた人たちが喜ぶと思います。
※	いつも同じ人がシンポジストになっている。
※	毎年同じ様な内容の発表
※	毎回特定のグループが似た内容で座長だけを替えて回しているので新鮮味が無い
※	基本的に、同じ研究者が発表する機会が多いため、一部の研究者のシンポになっている。ワークショップで、新学術とか共催するのは特定の方だけのための会となり、最悪である。
※	毎年同じ様な話題となっている。テーマを決めて、シンポジウムの数を減らす。
※	自身が希望するテーマはなかった。
※	興味を持てるシンポジウムがない。毎年同じようなものが多い。
※	医学分野が多いように感じた
※	同時進行のシンポジウム、WSの数が極めて多く度の会場に行ったらいいのかわかりにくい。自分にぴったりのテーマの会場はあまりなく、2-3カ所の会場を動き回ってザッピングした。新学術のようにオーガナイザー、演者が代わり映えないものも散見した。思い切ってプログラム委員会主導でテーマとオーガナイザーを指定して新たな切り口を工夫しても良いだろう。
※	テーマが偏っているかどうか判断出来ない。学会としてどのような基準でテーマを選んでいるのかを明確にしていれば良いと思う。
※	微生物分野が縮小している。幅広い生物、分野のシンポジウムを望む。
※	特定のテーマについて多角的な視点で発表を聞く機会になったので良かった。しかし、要旨投稿の時点で大方のテーマ・タイトルが決まってしまうと、適切なテーマへの応募が難しいと感じた。
※	生化学会との棲み分けを意識しているような気がした。脂質関係や地道なもの取りの仕事を避けているように感じた。
※	バイオインフォマティクスの分野に関するテーマがあまりなかったのが残念だったので、次回以降Annotation・Genome Assemblyに関するテーマを増やしてほしいです。
※	原核生物の基礎研究の発表が、年々減少しているように思います。そういった点からの、テーマ設定の工夫は出来ないでしょうか。

質問5-6. シンポジウムについて <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	似たような分野が同じ時間帯にならないようにしてほしい(ワークショップも含め)。逆にいうと、似たようなテーマが同じ時間帯になるということはテーマが偏っている可能性もある。
※	シンポジウムに出席しなかったのではありません。
※	テーマをさらに増やしてもいいと思う。
※	偏っているとまでは思わないが、有力研究者が各セッションを主催するというシステムにより、(日本では)マイナーな研究分野が目立たなくなるという弊害を感じる。
※	ただの研究報告会ならいい。
※	ワークショップよりもシンポジウムの数を増やして欲しい。
※	ポイントが判り難い分類のシンポジウムもあった
※	質疑応答が静かすぎます。質疑応答をまず、学生、ポスドク、そして、常勤研究者という風に順番付けしたら学生たちの発表もしやすくなるのではないのでしょうか。
※	細胞競合のシンポジウムを見に行きましたが、細胞競合に新規参入している海外ラボからも発表があり、非常に新規性のあるシンポジウムでした。
※	海外からの人が参加できる英語発表が少なく、呼んでも他の議題で議論できない。
※	日本語のシンポジウムを増やしてほしい
※	英語でのシンポジウムにおける外国人研究者の数が少なすぎる。残念ながら、英語のできない日本人が英語で発表し、英語で質問するだけの悲しい会になってしまっていた。
※	公募のシンポジウムの割合を増やしたほうがよい
※	日本の研究は、いろいろの分野で2-3年遅れている。国内の研究グループ中心の発表では不十分であり、海外の最先端の研究グループの発表がないと若い研究者には物足りなく思われるし、有益なディスカッションができない。
※	午後のシンポジウムが合っても良いと思います。
※	参加しなかった

質問6. ワークショップについて <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	90分は短く感じた。
※	ずいぶん偏っている印象でした。
※	同じ分野のワークショップを同じ時間帯にセットするのは極力避けてほしい。聴衆が取り合いになり、非常にもったいない。午後のワークショップはせめて6時半に終了したほうがよい。7時までというのはやや遅い。今回、120分と90分のワークショップがあったが、少なくとも午後はずべて90分でもいいのでは？聴衆からすると、120分ぶっ続けて聞き続けるのは非常にきつい。生理的に90分が限界。
※	議論が盛り上がらない演題も散見されたので、演題の選択に改善の余地があると考えられる。
※	会場の大きさと、テーマが合っていないかった。チェアラーが共発表者となっている演題がほとんどとなっているテーマが見受けられ、内容が偏っていた。招待演題が多すぎる。
※	ポスター発表者からの採択者数をさらに増やすべきだと思う。
※	入りきらないセッションもあった。会場の大きさ問題は事前にある程度予測はつかないのでしょうか。
※	もう少し三番目のセッション(17:30-19:00)の終了時間が早い方がいいように個人的には思う。つまり、早く終わるように工夫が必要だと思う
※	生殖細胞のテーマのワークショップがなくて残念 ポスターからの採用もなかった
※	一部WSの時間がかなり遅かった。
※	聴講者が入りきらないセッションがあった
※	シンポジウム、ワークショップ共に、毎年同じような人が座長や発表をしている例が多い。複数回採択された人は来年は優先順位を下げるなどの工夫が必要。一般演題から口頭発表に選ばれた人が少なかったのが残念。
※	一般演題から採択された演題は、指定演題に比べてレベルが低いように感じた。それにもかかわらず、一般演題から一定数採択する枠を強制したことで、今年のワークショップのレベルは昨年に比べて大いに低下したと思われる。一般演題からの採択枠を設けることは良いと思うが、割合を強制するのは良くないと思う。講演の質を担保することの方が重要だと思う。
※	一般演題からの採択者の公演時間(7分)が短すぎる
※	もう何年も同じ人がワークショップをやっているが、さすがにいかがなものかと思う
※	参加できなかったので、分からない。
※	毎年金太郎飴のように同じようなシンポジウムがちよっとだけ名前を変えて発表者も同じ。
※	若干テーマに偏りがあった。例年と比べ個体レベルの話が少ない印象だった。
※	総会と時間がかぶっているのはよくない。
※	会場の混雑具合がひどい
※	夜遅いセッションが多かったような気がします。
※	とあるWSでは、オーガナイザーのひとりがほとんどの演者の共同研究者として名前が入っており、正直興ざめました。
※	いつものメンバーで固めているようなワークショップがあり、とても萎えた。
※	三日のスケジュールにセッションを詰めすぎである。4日にするか、テーマを絞るべき。
※	座長の顔ぶれや選ばれた演者の顔ぶれが毎年ほとんど同じであり、女性や若手の新しい座長・演者の登用が少ないのが残念である。
※	セッションによっては演者が多すぎて一人当たりの時間が短すぎると感じた。
※	テーマの関連性が高いワークショップが同日開催の場合は、時間帯をずらすか、会場を同じフロアにするなどして移動の負担にも配慮したスケジュールにさせていただくと助かる。
※	途中にbreakの時間がほしかった
※	スクリーンを低い位置に設置していた会場があり、前列の人にかくれてスライド資料が見えなかった。
※	テーマは、少し偏っている気がする。もう少し基礎的なもの、分子生物学的な内容があってもよいかと。ワークショップによっては、質問の時間が短すぎるものがあった。もう少し議論を深める機会をつくる必要があるかと。一般演題から、一つは少ないかも。似たような学会である生化学会で同じようなワークショップ、似たような演者をしないでほしい。
※	興味ある分野が同じ時間にあった場合が多く、移動に苦勞をしました。午前午後共に2セッションずつして、同時進行を減らしたらいかがでしょうか。また、終わる時間がセッションごとに異なっているのも、その後の予定を立てる上で大変でした。
※	午後のポスター発表の後に、ワークショップ2枠とフォーラムの3連続は体力的に厳しいものがあるので、ワークショップ1枠にした方がよい
※	第8会場では、部屋に柱があり、満席時にはスクリーンを一部しか見るができなかった。難しいとは思いますが、もう少し工夫して頂けると幸いです。
※	テーマが偏りすぎてる
※	是非、血管生物医学会との共同ワークショップは来年も続けて欲しい
※	ワークショップは一時間以内にしてほしい。無理やり感のある話題が多い。15分×4か、20分×3で十分。
※	毎回同じような顔ぶれ、同じようなテーマ
※	若手オーガナイザーが多くて、独創的で面白く、また全体的に演者も若くて良かったです。
※	ポスターからの採択数を増やした方がよい。今回のスタイルは、これまで内々に決めていたワークショップと変わりなかったので。演題を広く採用すべき。
※	一般演題からの採用が少なかったように思える。
※	ワークショップオーガナイザーを担当したが、一般演題採択後に最終プログラムを提出した際、発表者に時間配分(発表と質疑)を伝える方法が不明確だった。今回は自分で発表者の連絡先を調べメールで連絡したが、プログラム作成時に発表+質疑を記載し発表者に伝えるようにしてほしい。
※	選び方に偏りがある

質問6. ワークショップについて <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	分野に近いワークショップやシンポジウムが同じ時間帯に開催されていて参加しなかった
※	会場の広さと参加者の数を読み違えている会場が多く見受けられた。
※	一般演題から採用できないのは内輪のグループでワークショップを利用しているからでは？
※	重複する話題が多く数を減らすべきと思う。学会推薦枠と公募枠を設けるなど工夫すべきと思う。
※	もう少しセッション数が多い方が良い。
※	ワークショップの時間が短すぎ、一般演題からの採択もほとんど取れない。
※	参加したいワークショップの時間帯が重なることがあるだったので、類似のワークショップを分散させてほしい。
※	一部のワークショップの時間が短く、セッションが盛り上がり損ねたのでは。
※	時間帯については、再考してほしい。日帰りや遠方から通っている参加者がいることも考慮してほしい。
※	J/Eで表記されているにもかかわらずほとんどが日本語だけで進行していたようでした。私はまだ日本語の勉強が足りなくてworkshopの大部分は理解しにくかったです。
※	・ワークショップでも、英語での発表を希望する人に対しては、英語可にした方が良い。*海外で新たな分野を学んだ人、日本語が喋れたとしても英語で教育を受けた人にとっては、日本語での専門用語が分からず発表が辛い。・時間を知らせるのは、ベルではなく、旗か何か、音のならない方法がいい。*ベルがうるさい。
※	ポスターセッションに参加できる時間をもう少し増やしてほしい。ワークショップを同じ時間帯に詰め込むのではなくて、早朝や夜のセミナーを増やして分散してほしい。
※	シンポとWSの違いはさほどないと思う。一般演題からの採用数の数値を知らないのではなんとも言えないが講演の機会を与えるのはモチベーションアップにつながる。
※	一般講演との差を明確にして欲しい。
※	時間厳守を徹底している回と時間を過ぎていても質疑応答を続けている回があったのが気になった。一つ一つのテーマの時間は比較的短かったので、集中力が切れずに聞くことができた
※	複数同時進行で忙しすぎる感があり、一旦疲れてしまうと、ついて行くのがしんどい。
※	BMBではあると思うのですが、ワークショップ、シンポジウム以外の一般口頭発表の時間はあった方がいいと思います。
※	毎年、同じような人やグループが採択されており、採用が偏っている。
※	ワークショップが短めなのはメリハリがあつてよかった。多くの演題を採用できるように、数を増やすか時間を延ばすかできるとよい。

質問7. ディスカッサー制についてお聞きます <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	ディスカッサーとして回ったが、基本的にどのポスターも常に議論されていて、ディスカッサーの必要は全くなかったと言える。そもそも科学において起爆剤がなければ議論がおきないような研究では不十分。
※	Late-breakingはそもそも不要。
※	各時間帯、最初のポスターだけはディスカッサーが進行してポスター発表ができ、討論も活性化したが、他のポスターはすでに他の参加者への説明中で、割り込まなかったので、あまり役目を果たせたかどうか分からない。例えば、前半はディスカッサーとともに1枚ずつポスターを見るような形式でもよいかと思う。
※	ディスカッサー制は良いと考えているが、今回実施がうまく活用できていなかったように思う。
※	特に必要はなかった。
※	大して興味もないのに、無理にわざわざ質問してくれなくていいと思った
※	居たようには思えなかった
※	ディカッサーが来なかった
※	若手からの選出でも良いのでは？
※	ディスカッサー、来ませんでした
※	ディスカッサー制でないところもあったと思う。不要だと思う。順番に回るというより、人がいないところにだけ聞きにいったら良いと思う。それが、桜として働くようになれば、それで良いと思う。そうするのなら、担当の方の名前の記載も不要となり、お手伝いするもしないも担当の方の良心次第ということが良い。担当の方も、土壇場で忙しくなることもあるでしょうし、この仕事自体はボランティアですよね。それくらい、ゆるくすれば担当の方を若手の会あたりからの人選もできるのではないのでしょうか。
※	ディスカッサー制については気がつきませんでした。
※	是非、ポスター賞を設けてほしい。ポスター賞があると、学生の意気込みが明らかに向上する。
※	ディスカッサーが来ないブースがあったので、もし来年以降も行う場合、何らかのバックアップを用意すべきではないかと思う。
※	ディスカッサーがきていないところもあったように思えます。
※	参加していないがディスカッサー制は不要だと思う。
※	なくても良いと思う。ほとんど機能していなかったように見受けられる。
※	ディスカッサー制度は不要だと思います。
※	前向きなディスカッションでなく、プロジェクト全否定＝クレームに近い討論をしてくるディスカッサーは不要だと思う。
※	なくてもいいと思う
※	今年度は参加できなかったのですが、分からないが、例年mディスカッサー制度はあると良いと感じている。
※	ディスカッサー制は無駄。それよりもポスター発表の割り振りを4部制にして各ポスター発表者が30分位ポスターの前にいるようにしてほしい。2部制だと発表時間にもかかわらず発表者のいない時間が長すぎる。
※	以前のように、ポスター賞があっても良いのかなと思いました。
※	一応、ディスカッサーは回ってきたが、個別に説明を聞きに来ている感じだった。あまり機能してなかったように思う。
※	ないよりあるほうがいければ、ポスター賞の選考とかを兼ねていたほうが真面目に見られたと思います。
※	私のところへディスカッサーは来てくださりませんでした。常に誰かしらと議論していたので、必要ないと思われたのかもしれませんが、ディスカッサーを担当できる著名な研究者の方との議論を楽しみにしていただけに、とても残念に思います。
※	どの方がディスカッサーだったのかわからなかったのですが、良さは実感できませんでしたが、取り組みとしては継続した方が良いのではないかと思います。
※	ディスカッサーが居たのか、何をしていたのか、分からなかった
※	ディスカッサーに会いませんでした。会っていたかもしれませんが、ディスカッションした結果なにが起きたかわかりません。
※	発表時間にポスター前にいたが、ディスカッサーの先生は現れなかったのがわからない。ポスター発表自体はいろいろな方と話ができてので良かった。
※	ディスカッサーはいなかったが、活発に議論できた
※	ディスカッサー制は不要。する側も負担であり、される側も迷惑。
※	誰がディスカッサーかわからなかった。ディスカッサーが熱心にやっていたところと、全然やっていなかったところとで差がありすぎた。せめて統一すべきかと。
※	ディスカッサーはもっとたくさんいてもよかったですように思う。
※	仕事してない人ばかりなので廃止を希望する
※	ディスカッサー制が有る年会と無い年会があるが、有る/無いは統一したらどうでしょうか？有るなら有るで、分子生物学会は「ディスカッサー制が有る学会だ。」と認知されるのは良いことだと思います。
※	ディスカッサーを担当しましたが、担当時間に来られていない発表者が多かったため、厳密な発表時間を発表者に知らせた方が良いのではないのでしょうか。
※	ディスカッサーが発表時間外に来て、説明を求められたり、計臆するのなら、もう少ししっかりとした制度にしないと、意味がない。
※	Late-breaking abstractsのポスターの場所を通路側の壁面に配置しなるべく該当分野に近い位置で閲覧できるようにしてもらいたい。見る側としては、Late-breakingは発表の質と関係がないので移動に時間がかかるのは負担になる。
※	他に聞きにきてくださった方々と質問の内容が被っていたためあまり必要性を感じなかった。
※	ディスカッサーがいなくても盛り上がっているポスターもあれば、ディスカッサーがいるのに発表者が立っていないポスターもあった
※	自分のポスターにディスカッサーが来たのかわからなかった



質問7. ディスカッサー制についてお聞きます <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	ポスターによっては、既に聴衆が多くなるものもあったので、ディスカッサーの自由裁量で、聴衆が少なそうなポスターを中心に活性化するのも良いように思う
※	ディスカッサー制とPrize制をセットにしたほうが全体の活性が上がると思う。自分のポスターにディスカッサーがいつ来たのかわからなかった。来なかったのかも。
※	ディスカッサーは若手ポスターなどにするのが良い。
※	分生には久しぶりに参加し、ポスター数が減ってしまったようで少し寂しい感じを受けました。しかしポスターセッションが始まると人が集まってきて、老若男女が議論する会場の熱気が凄まじく、感動しました。こういう雰囲気なら、分生ならポスター発表するのは有意義だなと思いました。
※	参加しなかった。ディスカッサーの負担が大きくて絶対やりたくない。
※	ディスカッサー制は無意味。仕方なく聞きに来ている感がありありで、正直不快だった。しかも、議論にもならなかった。ポスター観覧者がいなくても、話題が面白くないんだと納得するので問題ない。無理やり議論してもらう方が不快。
※	活発な議論になるかどうかはディスカッサーの技量によるので、やるなら目的や意義をよく周知したほうがいい。なくてもいい。
※	確かディスカッサーがついたことで、聴衆が少ないポスターにも人が来やすくなったように感じたが、ディスカッサーの役割があまり全体に伝わっていないように感じました。事前にディスカッサーの役割をポスター発表に関わる人全員に伝達し理解を得ていた方がより活発な議論ができたのではないかと思います。
※	参加していないので、実際の成果はわからない
※	前の聴衆とディスカッション中に、ディスカッサーが来られると、ディスカッションが中断あるいは終了してしまう。各ポスターに時間指定をしておくといいかもしれません。また、ディスカッサーは若手の方がいいと思います。
※	ディスカッサーが来なかったので、判断できません。
※	ポスター発表を行ったが、ディスカッサーの先生と会わなかった。
※	ディスカッサーが来られなかった。
※	ディスカッサー制は良いのですが、タイミングによっては一部のポスターに時間を取られたり、なかなか観れないポスターがあったり、時間調整が難しいので、ディスカッサーが聴衆を連れて5分ずつ巡回するようなスタイルにしてもらった方が、ポスター演者も時間調整しやすいし、ディスカッサーが手持ち無沙汰にならないと思います。
※	いてもいなくてもあまり関係ない。
※	ディスカッサーを担当したが、活動内容及び時間が曖昧で他のポスターを見る時間に支障があった。今後ディスカッサーを設けるならばポスター発表の最初の15分なりに限定し全ポスターを均等に回るなどの枠組みを設け発表者にも周知して欲しい。
※	全く必要ない。誰の特にもなってない
※	私のポスターにはディスカッサーの先生はいらっしゃらなかったように思います。
※	ディスカッサー制を利用し各セッションでの優秀ポスターにリボンでも付ける程度の簡単な賞があると学生のモチベーションに繋がると思いました。
※	ポスター会場が大きすぎ、発表も多すぎるのは否めない。
※	ディスカッサーには負担ではあるが、ポスター発表者(特に院生)にとって、誰も来てくれない時の失望感は計り知れない。ディスカッサーとして建設的な議論をリードするのは、研究者(特に常勤)である会員の務めではないか。
※	今回は、議論が盛り上がっているポスターには特に行く必要はないなどのガイドラインが示されていたため、担当ポスター以外のポスターを見に行く余裕もあり、よかった。
※	ディスカッサーに会えず、機能しているように思わなかった。
※	ディスカッサーがいないところもあったのではないのでしょうか
※	ディスカッサーが来なかった。
※	座長がいつ来たのか全くわからず、結局意味があったのかわからなかったのかわからない。
※	特に必要なかったように思います
※	韓国の分子生物学会にはないシステムだったので、日本の分子生物学会に参加して始めて経験したシステムでした。韓国でも導入されて欲しいと思うほどすごい良いシステムだと思います。
※	いらないと思う。
※	ディスカッサーが来なかったので、個人的にはメリットもデメリットも感じなかった。
※	ディスカッサーの存在は実感できなかった。
※	ポスターセッションにはあまり参加できなかったので良く分からない。
※	自分がポスター発表する際、ずっとたくさんの人に囲まれていたため、ディスカッサーの先生がいらっしゃったのかそうでなかったのか分からなかったのになんとも言えないです。
※	ディスカッサーを務めた立場からの意見です。熱心に話し込む余り、一対一の対話にのめり込み他の聴衆に注意を払えない演者が目立った。出来るだけ多くの方に聞いてもらうという点で損をしている。短時間(3分程度)で簡潔にtake home messageを伝える準備をしてほしい。
※	良くないとは言わないが、不要だったと思う(なくても活発な議論がなされたので)。
※	ディスカッサー制にすると発表者と自由に話が出来ない。
※	会場には多くの方がいましたし、不要と思います。
※	会場でのディスカッサー登録案内のアナウンスがちよっとうるさかった。
※	ディスカッサーが個人的にポスター発表者に張り付き、ずっと1対1で質問をされていたので、他の方がかなり待たされました。その先生はご自身のディスカッションが終わるとさっさと次のところへ行ってしまうされました。ディスカッサーの人選と役割の明確化が重要だと思います。
※	自分のポスター発表のときには、ディスカッサーが来なかったように思う。

質問7. ディスカッサー制についてお聞きます <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	ディスカッサーの先生からのアドバイスがもっと聞きたかったが、他の人が来たらずぐに行かなばならないと言われてすぐに立ち去ってしまった
※	ディスカッサーの皆様にもどのように依頼されたのか分からないのですが、既に活発な議論がされているポスターには行かず、研究内容等の問題であまり参加者が集まっていないポスターに集中して議論を盛り上げるなどディスカッサーの判断で融通が利くようにすれば良いのではないのでしょうか？
※	必死に研究した結果を発表する場で、聞きに来る人が居なくて悲しそうにしている学生を見ると辛くなる。ディスカッサー制度で救済してあげるのは良いことだと思う。
※	しくみがよくわかりません
※	活発な議論が起こるかどうかは、研究テーマ、ポスター内容(分かり易いか否か)、演者の説明の巧拙とやる気、に強く依存してしまっていて、人気の無いポスターの話し相手以上の役割は果たせなかった、というのが、ディスカッサーを担当した感想です。ディスカッサーに非協力的な演者が少なくなかったことが、とても印象に残りました。
※	シンポジウム等で話を聞くのも勉強にはなるだろうが、ポスター発表でディスカッションをすることが若い研究者にとって一番アクティブラーニングになると思う。ポスター会場に熱気があってよかった。
※	ディスカッサーとして参加したが、担当する演題を回りきらなかった。
※	ディスカッサーとは話ができず、残念だった。

質問8. 一般演題全般について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	いつも思うことだが、最終日はかわいそう。
※	ワークショップに採択される率が少なすぎる。
※	生殖細胞のテーマのワークショップがなくて残念 ポスターからの採用もなかった
※	WSは予め決まった演者で行う方がいいと思います
※	ポスター発表の分野・領域を分散させずにもっと1日に集約してほしい
※	参加できなかったので、分からない。
※	採択演題数は決めたほうがいい。今の状態はとても良くない。玉石混交ならまだしも糞の塊が多数紛れ込んでいる。全く機能していないプログラム委員会など止めてしまえ！
※	ポスターで時間外で発表している人、関係ない話を大声でしている人などを、大会のスタッフが注意するべき。うるさくて発表者の声が聞こえない。
※	例年と比べると工夫されていた感じはあるのですが、似た話題で、同じタイミングでシンポジウム&ワークショップが重なるとどちらかしか見れないのは残念だった。
※	午後のワークショップとワークショップの間にもう少し時間を空けてほしい
※	ポスターが多すぎて見きれない。
※	演題数が多すぎて見きれない。
※	Late-breaking abstractsに採択された課題の一覧を配布して欲しい。検索に追加するだけでは、不十分。
※	ワークショップに採用されたら、ポスター発表は免除してほしい。
※	私の場合はぴったりしたワークショップがあったので良かったのですが、もし自分が採択されたワークショップがなければかなり限定的なワークショップ編成だと思いました。
※	分野のポスターが3日に分散されたせいか、閑散としていた気がする。でも1日に集約してしまうと、逆に全日参加する人が減るかもしれない。
※	初日、二日目に夜遅くまで詰め込み過ぎでは？皆さんはいつ夕食を食べたのでしょうか…。18時頃以降のセッションを3日目の夕方に振り分ければ良かったのに、と思いました。夜遅くまでやっても参加者は少ないでしょうに…。皆、呑みに行ってしまう(行きたい)でしょうから。
※	興味ある話題が同じ時間にいくつも開催されていた。それ以外の時間は暇だった。
※	17時くらいまでにしてもらって、4日間の方が良い。
※	似た分野のプログラムが同時に開催されていると困る。ワークショップにポスター演者を入れるなら、オーガナイザーが当日までに演者とコンタクトできるようにしないと調整しにくい。
※	ワークショップだけでなく、前回のような、口頭発表枠をつくって欲しい。
※	一般演題から口頭発表への採択数が少なかったように思える。
※	同一時間帯に同じようなテーマのセッションがある日があったので重なりを少なくして欲しい。
※	演題エントリーのページに通信欄がなかったように思うのですが、要望を書く欄があるとよかったです。今回はポスターとともにナマの植物を展示したのですが、発表日が最終日だったので枯れないかヒヤヒヤしていました。
※	3日目は工夫が必要
※	近い分野のワークショップやフォーラムが同じ時間に行われていることがあり、どちらも聞きに行きたいときに聞きに行けなかった。
※	セッションの時間帯を午後には振り分けてくださったおかげで、ポスターセッションが全体的に盛り上がっていたような気がする。
※	様々な企画が詰まった年会であるので、ポスターセッションの時間帯はこれ以上とれないのではないかな。
※	ポスターセッションで似たテーマが同じ時間帯にまとめられていると、自分の発表中に聞きに行けなくなってしまうので残念だった。
※	PIの先生よりも、もっと若手研究者や筆頭著者になるであろう研究者の発表数を増やすべき。
※	ポスターからワークショップに採択された場合、同じ日にした方がよい
※	ポスターセッションの時間はかまわないが、空き時間が長くなるので、そこにシンポジウムやワークショップも同時開催して欲しい。
※	ワークショップの発表を聞いてからポスターを見ると、質問するポイントが明確になるのでディスカッションが深まるし、時間の節約にもなる。しかし、ポスター発表とワークショップ発表の日程が、必ずしもそのような日程振り分けにはなっていないことがしばしばあった。
※	夜に食い込ませずに、会期を4日にすべき学会の目的の一つは、滅多に会えない人と交流を持ち、意見交換を行うこと。夜までセッションがあると、その時間がなくなる。
※	1-451番までのポスターの並びは、分野毎にまとめるには距離が長すぎるので、まわりづらかったです。
※	例年のことだが、聞きたいワークショップの時間帯が重なることが多い。
※	ワークショップに採択される若手研究者数を増やしてほしい。結局、知り合い同士の発表になっている感じがした。
※	3日間にスケジュールを詰め込みすぎて、終了時間が遅くなるのは特に関東近郊の参加者にとって負担が大きいと思います。そのためか、フォーラムの参加者もあまり多くなかったように感じました。今回の量を4日間に振りわけ、フォーラムにも参加しやすい状況を整えてはいかがでしょうか。

質問9. 年会会期中の各日のタイムテーブルについて <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	ポスター発表の直前に貼り、自分の発表時間が過ぎたら直ぐに撤去してしまうポスターがありました(となりの発表者がそうでした)。また夕方早くにはほぼ全てのポスターが撤去されていました。午後一番の時間設定をこれまで経験しませんでした。が、残念ながら最悪の時間設定だったように思います。短時間の撤去を避けるためにポスター発表は最後に時間にすべきと思います。次回以降に十分に申し送りをお願いします。
※	ワークショップは全部90分でもいいのでは? 差別化した理由がわからなかった。
※	夕~夜に別用で会場を離れなければならない、夕刻にワークショップが設定されると聞きたい講演を聴けないことがあった。ポスター発表と逆の時間割であれば、融通が利くのだが。
※	特になし
※	午前と午後のワークショップの間に、ランチョンとポスターが含まれ、間延びして夜に疲れ切ってしまった。
※	似た内容がかぶっていた
※	特になし
※	参加していない
※	参加できなかったので、分からない。
※	同じ時刻にワークショップのコマが多すぎる。効きたいワークショップが被って聞きに行けない。
※	終わりの時間が遅いと思う
※	会場間の移動を考えると、ポスターセッションは夕方(シンポジウム、ワークショップの後)の方が個人的には都合が良かったように思います。
※	ポスター発表後と次のワークショップの間をもう少し空けてほしかった。
※	ポスターセッションは夕方(最後)にすべき。
※	同時セッションが多すぎて、聞きたかったものが聞けないことが多かった。
※	最後のセッションやサテライトが夜遅くなりすぎである。
※	ワークショップの時間帯が遅すぎた
※	ききたいシンポジウム、ワークショップが重なり、どちらかしか聞くことができなかった。一方、ポスターの発表時間がプログラムの真ん中にあるのは、とてもよかった。
※	金曜日の夕方のセッションがもう少し充実していてもよいかと思いました。
※	演題が多く、聞きたいものがかぶってしまうことが多かった。
※	3日間という丁度よい会期中でコンパクトに配されていてよかった。
※	興味があるワークショップが複数重なり、どれも参加したかったのに選ばなければいけなくて困った。
※	ポスターの時間帯は、夕方以降の方が良いと思う。
※	午前中に海外からの研究者の講演を固められると、聞きたい講演がかぶってしまって、聞けない。バラバラにしてほしい。
※	午後のポスター発表の後に、ワークショップ2枠とフォーラムの3連続は体力的に厳しいものがあるので、ワークショップ1枠にした方がよい
※	午前中に英語、午後日本語の講演を集めたのを今初めて知った。
※	スケジュールがカツカツすぎる
※	基本的に学会の特徴を持った講演であれば問題ないが、今の学会は基本的に英語を基本に行うのが普通の流れだと思う。日本の研究者も世界各国で講演しているので、それくらいの英語力がなければ研究者として問題があるように思う。
※	参加していないのでわかりません。
※	海外からの参加者は午前中しか参加できない。海外演者の講演を何人か聞きたいのに時間が重なっていて行けない。
※	ワークショップの時間が一律でなく選択肢があったことはよいと思います。
※	参加していない
※	19時以降のセッションも魅力的すぎて、飲み会の予定を入れてしまっていたのが辛かったのが残念です。
※	特になし
※	午前と午後のセッションの間の時間(含ポスターセッション)が大変長い割にセッション自体の時間(90分)が短い。30分開始を早めて120分で良い。
※	特になし
※	不参加のため、回答できません。
※	学会の開始時間が遅い。
※	午前中の英語の講演は部屋によってコミュニケーションの質にばらつきがあり、聞きたいテーマであってもメッセージが理解しづらいことが多々あった。
※	午後日本語の講演を集めたことで、海外から招聘した演者の先生が「午後は聴講できるセッションがないんですね」とちょっと残念がっていました。
※	ワークショップの時間が90分では、セッションが盛り上がるのは難しい。あまりの短いトークの連続では、それぞれの企画の意義が実現できないのでは。
※	最終日、クロークが混んでいたために、聞きたかった午後のワークショップに参加できなかった。もっとクローク閉鎖を早くするか、ワークショップ開始を遅らせるか、クロークの人員を増やすかしてほしい。
※	参加していないので良い悪い等の感想は特にありません。
※	以前に比べて学会が小規模になった気がする。
※	120分枠のワークショップを増やしてほしい。一方で、シンポジウム・ワークショップの重複が多すぎる気もする。
※	子どもがいて早く帰らないと行けないため、17時以降のワークショップに全く参加できなかった。17時30分くらいまでにメインのプログラムを全て終えて欲しい。ポスターが以前夕方からだった時は後半全く聞けなかったので、ポスターが昼だったのはとてもよかった。

質問9. 年会会期中の各日のタイムテーブルについて <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	ポスターは夕方の方が良かった。時間の枠としては今の長さで十分だと思うが、ポスターが貼られている時間が短くなってしまふので、合間などにゆっくり見れなくなってしまった。また、盛り上がってそのまま飲み会に行くことがなくなり、話せる時間が短くなってしまった。
※	夜9時までセッションがあるプログラムは止めて欲しい。勤務先の規定で、日帰り出張範囲なので、毎日片道2時間半かかるので、早朝および夕方以降のセッションは実質出席不可能。逆に、宿泊必須な地方なら気にならないのですが。
※	午前中の講演も日本語による発表もあると聞きやすいと思う。
※	すみません、よくわかりません。
※	ワークショップの時間が遅すぎ、出席できなかった。展示とポスターが同時になっているため、回りたいところに行けなかった。ポスターを一番最後にしてほしい。

質問10. 年会の特別企画について、良かったと思うものにチェックしてください <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	普段聴くことのない分野の公演が聞いて面白かった。
※	キャリアセミナーをランチオンや夜ではない時間帯に行ってほしかった。
※	今回、忙しく特別企画を聞けませんでした。
※	参加していない
※	パネリストにもっと発言してほしかったです。
※	今年の年会は、昨年のConBioに比べて、総じて面白くなかった。興味深い企画や発表が少なく、分子生物学会単独の年会では、生物学全般の面白みをカバーしきれないと思った。今後は、BMBやConBioといった形で、合同大会を増やしてほしい。
※	佐藤優氏講演で、年寄りの懐古的な質問が多かった。講演自体は素晴らしかったが、質問者をなんとかできたら、もっとよかった。
※	佐藤優氏に彼の専門分野でない話をしてもらったので内容がとても希薄でタイトルの内容とも異なっていて、残念だったと思います。なぜ政治分野の専門家に科学と宗教の話をお願いしたのでしょうか？(宗教や化学に全く関係ない)様々なトピックにたいして軽くコメントする、というのを羅列しているだけに思えました。あのタイトルの結論はなんだったんでしょうね…。せっかく著名な方に講演してもらうなら、充実した内容になるよう事前に内容をチェックしてもらえるとありがたいです。
※	ランチオンセミナーはネット申し込みがいいです
※	特別規格の時間帯が遅かったのが不満。子どもを預けることが出来ない(子どもが小学生や中学生)親にとっては、参加しにくい時間帯である。
※	基礎研究、大学への予算配分のあり方を、文科省・財務省の官僚(実際に策定に関わる人たちでない)と本音で論戦するような企画を期待する。
※	佐藤優氏の講演は圧巻であった。学会長の英断に恐れ入った。
※	参加はしていないが、海外の若手研究者招聘は良い企画だと思う。他の特別講演は、正直分子生物学学会で、わざわざやる必要がないものかと。正直、参加したいとは思わない。それよりも、サイエンティフィックに面白い研究、大事な研究をしている国内外の先生の話をつぶりと聞きたい。
※	分野外の方から講演いただくのは面白い試みだったと思います。科学とは関係ありませんが、佐藤さんも実績ある方なので、意見を聞くという面で良い機会でした。今後続けるとするなら、講演者選びが大変だろうと思いました。
※	学会としての研究環境に関する問題意識や問題提起、議論の場の提供は必要だと感じた
※	ノートの書き方、という企画があったが、内容が非常に薄かった。
※	分生に限らず、学会の特別企画全般について、私はあまり評価していません。政治的、思想的なものが多過ぎるからです。やれダイバーシティやら男女共同参画やら(今年は無かったようで、好ましいです)、こういう知性の低い活動家のための企画というのは吐き気がします。
※	参加していない
※	参加していないので、わからない
※	特別企画に不参加のため、「特になし」とさせていただきます。
※	何故佐藤優氏を呼んだのか？怪しげな人である。
※	不参加のため、回答できません。
※	学会主催のランチオンセミナーは特定の人たちのものである印象が強い。やる意義があるとは感じられない
※	見に行っていない
※	あれだけの講演者は、そう呼べるものではない。毎年期待するのは無理。
※	・海外若手研究者招聘企画に関して:援助していただき、助かりました。応募者数を記載して頂けると、認知度向上、次年度応募者の参考になると思う。企画に対応する英語の呼称があるとCV等を書く際に助る。企画に対する特定のロゴ(分生ロゴの下に海外若手研究者招聘と書かれたもの等)を作り、採用者にはポスターや口頭発表で謝辞への明記を義務付けたい。企画や招聘者知名度upになると思う。・キャリアセミナー: 対象トピックが広すぎ。また、答えありきな感じの話が多く、物足りなかった。
※	分子生物学会とまったく関係ない佐藤氏の講演を設定したのは、やや疑問に感じた。
※	高校生発表は練習をしっかりとって発表に臨んでおり、内容も良かったです。

質問11. 企業展示会・バイオテクノロジーセミナーについて <複数回答可> (要望・その他)

回答者番号	要望・その他記述
※	予約制やめてほしいお弁当出すのもやめてほしい(あまり興味のない人も集まるから)
※	3日目のランチョンのレパトリーが少なかった。
※	例年よりも活気が無かったように思えます。
※	参加できなかったので、分からない。
※	やる気のないブース展示員はみている不快。
※	3日目の朝9時頃会場に着いたが、売り切れでブースが撤収されていて参加できなかった。
※	アンケートなどに参加するときに、参加証に記載されたバーコードなどで所属の情報を提示できれば良いと思う。名前カードは若干使いにくかった。
※	情報系(特にデータの保存、管理ソリューション)がもうちょっとあってもよかったかもしれません。
※	見て回る時間がなかった。それぞれのブースで色々なイベントをしていたようだが、何をしていたのかよくわからなかった。
※	企業展示会は非常によかった。バイテクセミナーはよくわからない老人が横入りしてきて不快でした。
※	バイオテクノロジーセミナーを行う企業側で詳細を把握しておらず、入場券について小さなトラブルがあった。
※	ウェブ予約は今後も続けていただきたい。
※	最新機器の情報が手に入り、非常に助かっている。ラボで購入する機器類の選定にも役にたつ
※	アンケートなどに参加するときに、参加証に記載されたバーコードなどで所属の情報を提示できれば良いと思う。名前カードは若干使いにくかった。
※	もっと有用な最新機器のバイオテクノロジーセミナーを色々聞きたかった。
※	展示ブースが島のような配置で、通路も広く、移動がしやすかったのは良かった
※	枠が少ない
※	ポスタースペースを上回る勢いで企業ブースが多く、活気があったように感じました。分生らしいですね。車ごと乗りいれたカレー屋の出店があって面白いと思いました。しかし周辺のポスター発表者は災難だったでしょうね…。香辛料の臭いがただよっていましたので、ちょっと屋内では考え物かと思いました。
※	ポスターセッションが昼間の時間帯になったことは、企業の方々にとってもプラスだったと思います。
※	企業側から共同研究を呼びかけるような積極性が全く足りない。
※	メーカーの方がネームカードの大学名を確認して、積極的に声をかけるか、否か、決めている雰囲気を感じる。
※	数が少なかった
※	最終日の撤収時間帯をもう少し遅くしてほしいです。
※	同じ関連の会社が並ぶように配置したらもっと良いのではないのでしょうか？
※	企業展示スペースの奥行きが広すぎて、ポスターが遠かった。もっと奥行きを狭めて余kは場を広げれば良いと思う。
※	えらく多いと感じた。それを悪いとは思わなかったが、それにしても相対的にポスター演題がすくない気がした。
※	NBRPブースも良かった。
※	とても盛会でよかった。
※	昔と比べて、量・質ともに劣化している。
※	企業と研究者のマッチングを活発にするために、アプリの展示会関係のアピールや改善をもっと行うべきだと思います。
※	企業ブースにもっと気軽に立ち寄れる雰囲気があると尚良いと思う。たとえば多くの祭りでは櫓を中心にして露店が取り囲むように配置されていて、全体を見渡しやすい。休憩スペース・椅子・机を中心にして周りに企業ブースを配置してはどうだろうか。
※	プログラム終了後の夕刻以降に、夕食を提供するセミナーが開催されていたが、それが許されるなら、海外の学会であるようなhospitality suiteの方が、オープンな議論の場となって良いと感じた。
※	企業展示は毎年貧弱になってきており、企業のやる気を感じなかった。必要な情報も提供できない伝書鳩のような人をブースに立たせている企業もあり、せっかく訪問しても得られる情報が少なかった。パンフレットを渡すことだけに集中され、荷物が増えて遠くから学会に参加していたので、しんどかった。webで得られるなら、webサイトの案内をしてもらったり、画面を見せて案内してくれるとよかった。

質問12. ITシステム(WEBシステム・アプリ)についてお聞きます <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	スケジュールでポスターとその他が分かれているのが意味不明で使いにくい
※	プログラムを探す時に日付、発表形式、分野と3つの選択肢があるが、3選択肢は独立していて絞込みができないのは残念だった。
※	各演題にスケジュールへ登録ボタンが欲しかった
※	基本機能の他にも機能があることを知りませんでした。
※	検索をかけると見ることができるが、何気無く演題を見渡しにくい。
※	演題検索が異常に遅い
※	アプリはとても使いやすかったです。
※	アプリはを毎年ダウンロードするのではなくアップデートという形にすることはできないか
※	ガラケーを使っている自分には意味がない
※	参加できなかったので、分からない。
※	ポスター会場にて、WiFiを使用したが、電波が弱くて、スマホの電池を消耗しスマホが動かなくなり困った。多数のユーザー用のWiFi設定となっていなかったのでは？
※	検索機能が不十分であった。例「上智大」で引っかかるものが「上智」では引っかからないなど
※	ガラケーのため一切関係なかった。
※	会場のWiFiにパスワードがなかったのでセキュリティが気になって使うのを躊躇してしまいました。
※	キーワード検索結果で表示された演題から選択してマイスケジュールへ登録できないのは不便だった。
※	唯一アプリでの検索機能が改良の余地があると思う
※	使用しておりません
※	他の学会でも、このシステムが活用されると良いと思った
※	素晴らしく便利だと思います
※	発表側と聴衆側とが相互連絡できるとか、お気に入り(?)にチェックすると人数が表示されるシステムが面白いと思いました。これは良いですね。こういうリアルタイムの双方向の交流が今風で、議論に拍車がかかりますよね。
※	結局よく見なかった
※	動作が遅い
※	メールで送られたIDとパスワードと参加証に書いてあったものと違い、使えなかった。
※	「非公開設定」にしていなければ、他人に自分のスケジュールが見られる仕様になっており「設定」について知らなければ、個人情報が出てしまう恐れがあると思った。
※	便利ではあったが、使い方は難しかったです。
※	ミスがあったら、修正可能にしてほしい。全く修正できないのはおかしい。
※	全く使っていない。
※	マイスケジュールの中に印を付ける機能を付加して欲しい。後で何かを調べたりする必要があるときに便利。
※	お気に入り登録したポスターがポスター会場のどの位置にあるかをマーク表示できる機能を復活させて欲しい。(見つけられなかっただけかも)
※	一部機能は形骸化している
※	オンラインの環境でアプリを開くと、まず更新しようとして、うっかり更新を始めてしまうとしばらく時間がかかるため、会場の確認などがすぐに行えなくて不便でした。
※	慣れてきたので問題なし。
※	現在進行しているプログラムをリアルタイムで確認することができる機能は役に立った。マイスケジュールは、保存した演題がスケジュール順ではない順番(保存順?)で表示されたため、若干の使いづらさがあった。
※	演者名が日本名しか表示されず、読み方がわからない人が多かったです。英語のセッションでも演題が日本語のため、結局冊子を見なければならなかった。
※	会場ナビ機能とSNS機能があることを知らなかった。
※	会場内のWiFiが重すぎ
※	ポスターセッションとワークショップのスケジュールを1つにまとめて表示してほしい。リアルタイムで何が行われているのかがわかる機能はよかったです。
※	いいね、機能がなくなったのは理由があるのでしょうか・・・?
※	今後も使い続けたい。
※	学生は自分のポスターが何人に登録されているかの数字を見てやる気を出していた
※	日程表やポスターの位置からプログラム・要旨検索が出来ると良い(過去にあったように)。
※	以前は学生など若い世代が競って「いいね」を付けていたが、めっきり少なくなったように思う。関心がないというよりは、目新しさがなくなったという理由だと思う。
※	スケジュールを入れたいたのに通知がこなかった。周りの人も来ないと話されていた。検索をもっと使いやすくして欲しい(高度な検索ができるようにする、表記の揺らぎを許容するなど)
※	プログラムに登録した人数が表示される機能があり、注目度が測れて面白かった。同期したPDFを印刷して持ち歩くことができた。
※	参加者・発表者検索から演題にとべると、より使いやすかったです。
※	古いパソコン、OSでも使えるようにしてほしい。
※	使わなかった。
※	ひらがな・カタカナどちらでも検索可能にして欲しい。マイスケジュールは、縦に長くなってしまい見にくかった。セッション毎の小見出しだけを表示するとかするとより良いかもしれない。
※	自分の演題番号が分かりづらかった
※	マイスケジュールのPDF作成機能は便利でした。



質問12. ITシステム(WEBシステム・アプリ)についてお聞きします <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	発表にチェックをつけた人が「匿名」と表示されるのは非常に気持ち悪い。匿名にするような人間の情報は全く必要ないので、表示しなくて結構。逆にテニユアレベルの人がわざわざ名前を公開してチェックつけてくれるのは発表者にとっても嬉しい。したがってテニユアのひとは原則名前公開しても良いのではないだろうか。ただしお忍びで聞きに行きたい講演もあるので、「発表に興味がある場合に、チェックしたことを公開するか非公開にするか逐一設定できると良い」。
※	モバイル回線やWiFi回線の状態が良くない状況があり、ITシステムのみに頼れず、プログラムブックを手放せないのが辛かった。会場ナビ機能は、見づらくわかりにくく、全く役に立たなかった。
※	プロフィールを公開すると「マイスケジュール」まで公開されるのは問題。プロフィールを公開しない人が多い原因になったと思う。
※	前年より動きが良くなっており、途中でアプリが落ちることもなく、使いやすくなった。早めにアプリを公開してほしい。

質問13. ITシステム・年会プログラム集・ポケット版プログラムの使用状況について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	学会の記録としては冊子が便利だし、重要と考えている。
※	ポケット版プログラムは使用しなかった。冊子版とITシステムの併用が最もニーズに合っている気がする。
※	冊子の人名検索欄は小さくないでほしい。
※	要旨がPDFダウンロードだと使いにくい。予め時間がある人でないとチェックできない。
※	冊子版は実用上不要と感じたが、出張報告書類にプログラム表紙・当該演題ページのコピーを添付する必要があるため、(PDFでもかまわないが)冊子形態のプログラムは必要だと思う。要旨についてはオンラインでもかまわない。
※	特になし
※	全体的に今一つ使いこなしにくい。学会自体が大きすぎるためかもしれない。
※	(あらゆる)冊子の送付をやめて年会費を安くして欲しい。
※	すぐに見れるという利点から、ポケット版のような軽くてコンパクトなものが重要だと思うので、廃止しないほうが良い
※	特になし
※	自分が見たポスターのチェック、WSの感想などの書き込見には冊子が便利。両方あってよかった。
※	複数会場を移動する予定があったときは、冊子体の頁に折り目をつけて聴く発表に印をつけておき、確認しながら移動したので、冊子体があった方が便利です。
※	使っていない
※	出張手続き等の関係で、紙媒体の冊子があった方が助かる。
※	ポケット版プログラムは不要
※	参加できなかったので、分からない。
※	もう少しポケット版の内容が多ければより良かったです
※	学会不参加のため、未回答
※	会期中は冊子とITシステムを併用した。冊子もITシステムも、事前のプログラム検索で使用した。冊子は興味のあるトピックスを大雑把に探すのに便利で、ITシステムはキーワード検索やマイスケジュール管理に重宝するので、どちらも使用したい。ポケット版プログラムはほとんど使用しなかったため、必要ないかもしれない。
※	今回は参加していないからわからないが、参加した方に様子を聞いて、自分なら会期中は荷物がおもくてつかれることが多いので、ポケット版プログラムとアプリ等を使いたい。
※	何しろ演題数が膨大なため、冊子を読み込む時間は無いし、読み込もうとも思わなかった。なのでITシステムの併用、および冊子は希望者のみというスタイルを強く支持する。とは言え、スマホを開くまでもないちょっとした調べごとに、ポケット版はまさに痒い所に手が届くといった印象。今回の形式に関しては非常に満足している。
※	参加者数が多いので、検索に頼らなければほしい情報にたどり着けません。ITシステムは必須だと思います。
※	冊子版にQRコードをつけて、それをアプリで読み取ると演題の詳細や要旨に飛べるシステムがあれば便利だと思います。
※	年会前・会期中とも主にITシステムを使用し、冊子版はほとんど使用しなかったが、冊子体は数年内は閲覧の機会があるので保存している。継続して欲しい。
※	経費の削減につながるのであれば、冊子は全般的にいらないと感じた。経費が浮くのであれば、会費の値下げか若手研究者の助成金などに充てて欲しい。
※	全員がiPadなどを持っているわけではなく、スマホでは小さくて見にくいところもあるので、やはり冊子版が必要だと思う。ただし、事前にプログラムを見る時には、パソコン上で検索できるので便利。
※	会期中は冊子とITシステムを併用した。冊子もITシステムも、事前のプログラム検索で使用した。冊子は興味のあるトピックスを大雑把に探すのに便利で、ITシステムはキーワード検索やマイスケジュール管理に重宝するので、どちらも使用したい。ポケット版プログラムはほとんど使用しなかったため、必要ないかもしれない。
※	届いた時ポケット版は便利かと思いましたが、実際はアプリしか使いませんでした。
※	参加していないが、不参加であっても講演内容を知れることは大切であるかもしれない。その辺り、会員に限るのかもしれないが、検討してほしい。
※	参加していないのでわかりません
※	一昔前の分生のプログラム集と言えば、殺人的な電話帳でしたが、今年の冊子(ポケット版プログラム?)はコンパクトで良かったです。紙媒体の良さは、流し読みを高速でできる事にあります。全体をざっとチェックした後、会期中はアプリを使用しました。
※	ポケット版だけで良い。
※	当日は主にITシステムを使用したが、冊子版も会場の場所やディスカッサーの確認などに使用した。
※	ポケット版プログラムは文字が小さくて、読みづらかった。
※	検索機能やマイスケジュールはアプリ版が便利だったが、冊子の方が直感的で分かりやすく感じました。
※	参加していない
※	特になし
※	特になし
※	不参加のため、回答できません。
※	年会前・会期中、両方とも活用した。
※	自分は老眼なのでポケット版プログラムは全く利用できませんでしたが、若い人には便利ではないかと思えます。
※	ポケット版プログラムは全く使わなかった。
※	不参加であったので強い意見ではないが、冊子体は不要だと思う。
※	冊子版のノートページをあと4ページほど増やしてほしい。
※	参加していないので良い悪い等の感想は特にありません。
※	ポケット版は便利そうだったが、老眼で見えないので役には立たなかった。

質問13. ITシステム・年会プログラム集・ポケット版プログラムの使用状況について <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	参加したワークショップやシンポジウムの内容のメモもすべて冊子版に書き込んだ。ITシステムは使う気がしなかった。
※	参加できませんでした
※	年のせいで年会プログラム集(冊子版)・ポケット版プログラムの小さな字を読むことが出来ずすべてITシステムに頼ったがWiFiが届かない場所があったのが残念だ。
※	年会前・会期中ともITシステム、冊子版の両方を使用した。ポケット版プログラムは、文字が小さすぎて読めない。
※	冊子版は持ち歩くにはコンパクトで便利であるが、文字が小さすぎて年寄りには読めない文字が多く、特に会場案内図は役に立たなかった。もう少し工夫してもらいたい。
※	各演題の要旨が読める訳ではないので、冊子版は不要。ポケット版も不要。印刷代、送料等、金の無駄。思い切って電子版のみにして、希望者のみ冊子を購入する形にすれば良いのでは。
※	年会前・会期中ともに、ITシステム・冊子版の両方を使用した。
※	冊子版は字が小さすぎて読めない。特に、高齢者には無理。
※	ポケット版プログラムは不要。
※	WEBシステムやアプリに面倒さを感じる人にとって、冊子版はある程度必要だろう。ところでここ数年Late-breaking abstractsのブースがかなり盛況になってきているように感じるが、皆はどう思っているだろうか。欲しい人だけが当日手にできるような、非常に雑な体裁のLate-breaking abstractsプログラム集を配布したほうが学会としては今後プラスのような気がする。
※	利用していないのでわかりません。
※	アプリは便利。冊子は小さくなって持ち運びやすく便利。全部アプリでもいいが、at a glanceのような小さい冊子は残して欲しい(電波状況が悪い時とか紙媒体あると便利)
※	上述のとおり。

質問14. 本年会の開催形式(単独開催・他学会協賛形式による連携※)について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	企画側なので評価は控えるが、それなりに盛り上がり有益だったのではないかなと思う。
※	生態学会よりも生化学会と一緒にしたい。
※	異なる学会が合同で年会をする意味がわからない。だったら、一つの学会になれば？と言いたくなる。
※	生態学会との合同開催にどれだけ意義があったのか分からなかった。
※	日本生化学会とも合同にした方が良い。
※	生化学会と同時開催とすべき
※	生態学会との連携は良いが、それでは物足りなかった。
※	参加できなかったのが、分からない。
※	生命科学系の学会は改組、再編すべき。
※	日本生物物理学会 との共同研究推進を！！
※	生化学会との合同が一番望ましい。
※	2学会の棲み分けが曖昧なのでよくわからない。
※	生態学会と分子生物学会との共催は相補的でシナジーが高いと感じました。一方で、以前のConBIOは非常に種々雑多で、良くなかったように感じます。
※	特に連携していることを感じなかった。2割程度が他学会主導のプログラムであれば良いと思う。
※	今後も様々な学会との共同開催を企画してほしい。(医学とか、検査とか)
※	実際に共同研究に結びつかないに重きを置かず、こういうちょっと異なる分野との交流は刺激的。生態の発表を聞いてもあまり理解できなかったが、生態の方から分生の人への質問は、自分への質問、他人への質問全て新しい視点をいただけるので非常に楽しかったです。
※	新たな研究領域の開拓は両学会にとって有益であり、特に若手の研究者の交流と刺激は大事であると思う
※	生態学会に限ったことではないと思うが、学会の多い昨今、同じようなセッションを持つ学会等を一つにまとめて実施するのは良いと思う。他の学会との連携も考えて観てはどうかと思う。
※	連携は否定しませんし、別に良いと思います。ただ、分生の総合感というか、何でもアリな所が好きで参加しています。特定分野に偏るようであれば辞めます。そんなマインドは科学では無いと考えているからです。というか、特定分野を優先させるような偏狭で我田引水な方々は、小さな研究会などで仲間内でオナニー披露でもしていれば良いでしょう。
※	特に交流できる部分は無かった。というか、違いが分からない。
※	生態学会との合同ワークショップ・フォーラムは、双方の研究分野がかなりオーバーラップしてきていることがわかり興味深かった。
※	参加していないので、わからない
※	パート1に参加しました。分子生物学は技術面での最先端な研究報告が多いですが、生態学はもっと広い視野で生物をとらえていて、互いに持たない部分を補い合える立場であると感じました。とても面白かったです。
※	特になし
※	このアンケートではじめて知りました。
※	なぜ生態学会なのか？生化学会の方が分生に圧倒的に近いのに。
※	1学会との共催なら、中途半端。するなら合同年会
※	生態学会は意識しなかった。
※	もっと、他の学会とのコラボを実現させたい。
※	大変刺激的だった。もっと多くの分子生物学会員に参加してもらってよかったと思う。
※	現在でも分子生物学の根源的な研究は継続中しているものの、多彩な研究におけるツールとしての重要性がある。その柔軟性を生かすためにも連携を続けるのは賛成。
※	生態学会と共同で開催する意味は何かあったのでしょうか。生態学会がどのような学会か分からなかったし、共同開催のメリットをあまり感じませんでした。
※	分子生物学会員の興味を引くような分野が、他の学会で展開されるような時代には、積極的に連携する企画を立ち上げてほしい。たとえば、DNA配列解析による人類進化および人類移動の解明(進化人類学)など。
※	連携自体には反対しないが、なぜ生態学会なのか不明。
※	そもそも生態学会と連携していることに気づかなかった。
※	分子生物学と生態学とはオーサーシップの文化が大きく違う。生態学においては学生がコレスポンドングオーサーとなるケースも多く、ギフトオーサーシップも少ない。医学や分子生物学でオーサーシップについての文化の是正が進まない、連携過程でいずれ大きな軋轢やトラブルが生まれてくると思う。
※	分子生物学会員だが、最近、生態学に研究で関わる機会が増え、面白い生物を扱うだけでなく、統計学や数理解析といった、分子生物学会にない発想や研究に対する姿勢があることを知った。自分と同じように感じる方はいると思うので、そのような一助になる学会企画は非常に良いと思う。
※	分子を見たい生態学者と、生態・生物を知りたい分子学者が交流するなどということは、どうの大昔から行われていることであって、全く目新しさを感じなかった。むしろ物理学会・化学学会・工学学会・日本医学会のような別畑の学会とコラボしたほうが良い。
※	とくに協賛による開催の利点を見つけることができなかった。

質問15-3. 今後の年会の開催形式についてお聞きします <複数回答可> (協賛形式の連携が可能な学会)

回答者番号	協賛形式の連携が可能な学会記述
※	生物物理学会
※	参加者が増えすぎて、学会の日程が伸びてしまう(4日以上)ことは避けて欲しい。全日程に参加するのが難しくなる。
※	生化学会
※	生物系は、学会が多すぎてその運営や年会費だけで多忙になる。もっと学会を統合させて、化学や物理のように少なくしてはどうか。
※	生物物理学会など
※	生化学会、細胞生物学会、発生生物学会
※	日本生物物理学会
※	日本発生生物学会日本進化学会日本動物学会
※	具体的な学会名は存じ上げませんが、物理学や情報科学などの異分野の学会との共催でも面白いのではないかと思います。
※	臨床系の学会との連携はどうなのでしょう？
※	バイオインフォマティクス系学会
※	ウイルス学会、遺伝子細胞治療学会
※	細胞生物発生生物生化学生物物理臨床系との共催も面白そうです
※	あらゆる学会と連携したら良いのではと思いますが、いっそ超巨大会を、上位機構として新設しては如何でしょうか？「日本生物学機構」とか。そして隔年～数年に一度Forum(学会)を開くとか。基礎科学的に発言力の強い組織が必要でしょうし、そして政治的な発言力とは数でしょう(非科学的ですけど)。
※	進化学会分子生物学会とのアフィニティーは高いと思います。植物生理学会植物関連の発表が比較的少ないという印象なので、植物系の学会との連携をしてもよいかもしれない。
※	会員がオーバーラップしない様な学会が良いと思います。物理学、宇宙、進化、など。
※	日本RNA学会
※	細胞生物学会、発生生物学会
※	Q4で挙げた学会すべて
※	免疫学会、神経生理学会、
※	日本発生生物学会
※	植物生理学会
※	物理学会・化学学会・工学学会・日本医学会

質問15-6. 今後の年会の開催形式についてお聞きします <複数回答可> (合同開催が可能な学会)

回答者 番号	合同開催が可能な学会記述
※	細胞生物学会 発生生物学会
※	日本細胞生物学会
※	生物物理などもよいかもしれませんが、学会規模が大きすぎると魅力半減かもしれません。いくつかのセッション(分野)を合同にするのはどうでしょう?(参加費が難しい気もしますが)
※	日本発生生物学会
※	生化学会、細胞生物学会、発生生物学会
※	免疫学会
※	ConBio2017のように様々な学会との合同開催の試みを希望します。また、声をかけていない学会からの応募があっても良いと思います。
※	日本発生生物学会日本進化学会日本動物学会
※	日本生化学会、日本ミトコンドリア学会、日本RNA学会
※	人類遺伝学会
※	細胞生物発生生物生化学生物物理臨床系との共催も面白そうです
※	生化学会、生理学会や解剖学会や病態関連。どの国でも実現していない今のうちに、アジアのExperimental biologyを目指してほしい。
※	学会が乱立し、分子生物学会に参加していない知り合いも多かった。なので学会数を減らすために合同開催を支持します。
※	細胞生物学会
※	互いの学会の年会長同士がツーカーの仲であることが、合同開催の大前提。それでも双方の事務局の負担やストレスは相当のものだと思う。合同開催に賛同する方は、ぜひ自ら年会長に立候補して頂きたいが、各方面に働きかける負担を考えるととても勧められない。
※	Q4で挙げた学会すべて
※	食品科学工学会
※	再生医療学会とか遺伝子治療学会とか小さめの学会もプラスすると面白い

質問15-8. 今後の年会の開催形式についてお聞きします <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	これからの日本の若手研究者のためには、生化学会と分子生物学会を一つにして、生物系の一大圧力団体を作るしかない。生態学会や細胞生物学会と一緒にしても構わないが、人数的・歴史的にも生化学会と分子生物学会が双壁であることは論を待たないので、この二つが一緒になることが非常に重要。特に最近、分子生物学会のほうが研究者の視野が狭く、海外の動向や流行に流される研究の割合が高いし、理事や執行部が旧帝大や理研の研究者ばかりで、日本全体のことや将来の日本のことを真剣に考えていないと強く感じる。この点では生化学会のほうが非常にまともである。
※	他の学会、特に交わりがないような学会との合同を企画してほしい。発生、細胞生物、生化学、RNA学会などは一緒にやってもあまり代わり映えがしない。普段演題がないような学会との合同が望ましい。
※	他の学会に参加したければ、その学会に行けばいいこと。わざわざ合同で年会をする意味がわからない。その分、ワークショップの数が減るのはおかし。
※	要旨集が生態学会のみでの発行だったので、それが不満だった。
※	分子生物学会と生化学会、この大きな学会は2つも要らない。
※	もう少し分けてもいいと思う。みたい演題が重なって見られないこともあったし、会場に入ることができずに諦めたものもあった。
※	余り多すぎると、見たいワークショップが重なるのと、集中できない。また人気のワークショップが入室が難しくなる。今年の学会は少し参加者が少なく感じたが、集中できたのはむしろ良かったと思う。
※	生化学会との合同開催を定期的に行うか、合併すれば1年にこれだけ出ればよい学会となるため参加者側としては有難い。生化学会以外は、分子生物学会よりはるかに規模が小さいため分子生物学会に吸収される形になってしまう気がします。そのため合同で開催しても、分子生物学会の場所を借りてその小さい学会を並行して行う、ということになるため、参加者が分散する可能性があり、小さい学会にはあまり有難くないのではないのでしょうか。
※	生化との共催は3-4年に一度ぐらいでよい。その他との共催はするメリットがよくわからない。共催したい学会はそもそも単独できないのなら、存在理由から問い直すべきではないか。ConBioだけはもう絶対にやめてほしい。
※	3日開催は今回の規模では無理があった。
※	単独開催でも、すでに規模が大きすぎるように感じています
※	色々な学会で同じような話を聞くのは無駄が多いようにも思いますので、共催は良いと思います。ただ、ConBIOのようにあまりにも多くの学会をまとめすぎると、大きくなりすぎて焦点がぶれるので、2-3学会を限度にさせていただきたいと存じます。生態学会と分子生物学会との共催は相補的でシナジーが高いと感じましたが、生化学会と合同にする意味はよくわからずにあります(合同の時とそうでないときの違いが不明確な気がします)。
※	メリットもデメリットもあるので、毎年いろいろと変えればよいと思う。
※	学会が多すぎる。分子生物学会が中規模な他学会の面白い研究をピックアップできていないので、ワークショップのテーマの偏りが慢性化している。
※	今後も単独開催が続き、閉塞感を感じる。若い研究者や将来ためというよりも、現在の研究者のためという年會にしか見えない。これだけの演題数を予算的な理由というだけで3日間やるのは全く研究のリソースとしての活かしていない。
※	分子生物学会自体が既に規模が大きく、内容はほぼ合同年會ではないだろうか。複数の学会に所属している方が、1回にまとめていきたいか、学会参加実績を考慮して複数の方がいいかという問題？
※	単独と生化学会との共催との違いを実感できない。生命科学を総合した大型年會は年一回あれば十分ではないか。
※	基本的には単独開催として欲しい。共催は例外。生化学会とはやらない方がよい。
※	年次によってパターンが異なるのが良いです。
※	固定しないでフレキシブルに行うのが良い
※	生化学会とは学会の合併も含めて検討すべきだと思います。
※	自分たち(分子生物学会会員)の学会であることを認識できてよかった。
※	生化学会と同時開催時はいつもがさつな感じになり、うっとうしい。人が多ければよいというものでもない。ワークショップやシンポジウムの話の方よりも激しくなり、幅が狭くなる印象がある。

質問16. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください

回答者番号	意見記述
※	学生や若者に魅力ある学会にすれば発展できるだろう。
※	会期が3日だったが、多少参加費が上がっても4日で行ってほしい。ポスター会場に座れる椅子がもっと多くあるとよかった。
※	実験ノートに関する研究倫理のセッションは非常によかった。
※	クロークが早く終了し最終日の荷物の持ち運びに苦労しました(狭い会場に大きな荷物を持ち込む必要がありました)。学会開催時間は継続してほしいです。
※	今年は落ち着いて話が聞けて、討論の時間も多く参加しやすかった。個人的にはこのような大きな年会では3日くらいまでが限度で、4日あると体力的に辛い。プログラムも分野が程よく分散していて、聴きやすかった。
※	企業用の名刺カード、意外と良かったです。(意外というのは、当日まではQRコード読み取りにすれば、とか思ってたのですが、当日現場では名刺を求められましたので)
※	運営事務局、組織委員会の対応が迅速で良かった。不慣れなオーガナイザーで様々迷惑をお掛けしたと思う。
※	参加者全員が着席して発表を聞けるように、できるだけ大きな部屋を確保してほしい。少々、空席があってもいいと思う。
※	会期中はiPhoneは全く使用しなかった。他の大会や学会で便利なこともあったが、今回は今ひとつ使用する意義が感じられなかった。何故毎年こうも波があるのか。良かった試みは、一回きりで終わりにするのではなく、継続的に採用するようにしてほしい。また「オリジナリティを発信する」テーマだったようだが、シンポジウム・ワークショップ共にそれを感じられるものが本当にあったのか甚だ疑問。
※	是非、ポスター賞を設けてほしい。ポスター賞があると、学生の意気込みが明らかに向上する。
※	大きすぎて落ち着いて見られない。
※	前回の大会(ConBio2017)の時よりも、高校生の口頭発表を聴くスペースが広くなり、よくなった。座長の働きが非常に良かった。〇〇〇先生は余人をもって代え難い。大変な役目でしょうが、来年度以降も引き受けて欲しいです。
※	高校生の発表がクオリティ高かった。高校が特定の都市に偏りがあるのは何か理由があるのでしょうか。
※	単独開催で、分生らしい新しい視点からのシンポやWSが企画されて大変良かったと思います。
※	今回も盛況で良かったと思います。
※	常時の分子生物学会と生化学会の合同開催を支持します。
※	楽しく参加できた。最先端の技術を使った研究についてのセッションなどあまり馴染みのない研究分野について、まとめて観て勉強できる事は、インターネットが発達した現代においても、学会に参加する意義の1つだと再確認させられた。
※	内容が医学的なテーマに偏りすぎている。医学や農学や化学に飲み込まれることなく生物学という分野が生き残るためにはもっと基礎生物学に重きを置いて欲しい。
※	生殖系のテーマのシンポやワークショップがなくて物足りない
※	日本分子生物学会、日本細胞生物学会、日本生化学会、日本発生生物学会は、演者もポスター発表もオーバラップしているものが多いので、毎年、全学会合同開催にしていただけると時間の節約になり、大変助かります。
※	月末はスマホの通信制限に頻繁にかかるので、開催時期は月初めの方がうれしいです。ホテルや店を検索する際にスマホが使えなくて苦労しました。
※	英語でのセッションは異なる分野の勉強には不向きだと思う。
※	5,000人を超える人が集まっている割には、口頭発表をしている人が毎年代わり映えない。
※	今年の年会は、昨年との比較で、とにかくレベルの落ち方が激しかった。興味深い演題や企画が少なく、非常に残念な会だった。ConBio形式の良さが、改めて如実に感じられた。大変だとは思いますが、ConBio形式の会を継続的、定期的に開催できるようにすることが、日本の基礎生命科学系の学術の発展につながると思う。そのためのイニシアティブをとるのが、分子生物学会の使命だと思う。
※	研究発表の質が悪すぎる。量が多すぎる。
※	若手、女性の活躍の場が少ないように感じられるので、ワークショップなどのセッションは若手と女性の比率を義務付けるようにすべき。
※	上にも書きましたが、全体的に身内が固まってシンポジウムをやってる印象を強く受けます。オーガナイザーの2人や演者にconflict of interestがないプロポーザルを優先するなどの措置があればいいと思います。
※	総会を各会員が責任持って参加できるように、時間帯や会場規模を考慮すべきだと思う。*お任せは、よくないと思います。
※	昨年のように、ワークショップの発表の会期後配信はあるのでしょうか？もしあれば今後も続けて欲しいです。
※	横浜開催は良いが、神戸開催は遠いこと交通、宿泊が混んで難儀するのでちょっと参加するのが大変。
※	2020年は、コンパクトな会でよしい。
※	日本語で行うワークショップを減らさないと欲しいです。英語で行うワークショップは、自分の専門分野以外、なかなかついていけません(ただし、多くのネイティブスピーカーの発表はわかりやすかったです)。せっかくだと色々な分野を勉強するために高い旅費と参加費を払って学会に参加しているので、ぜひご検討ください。専門分野の英語のセッションを開きたいときは、国際学会へ行けば良いと思っています。
※	毎年とてもよくオーガナイズされていて大変ありがたく思っています。今回の分子生物学者と生態学者のパネルディスカッションも大変興味深く拝聴いたしました。また今後ともよろしく願っています。
※	ConBio形式は支持しますが、会場が大きくなりすぎて、移動だけでもかなり時間がかかります。パシフィコはまだいいですが、他の会場だとますます時間がかかります。音響的に実現できるかはわかりませんが、展示会場みたいな広い場所で、パーティション見たいなもので区切って、まとめて口頭発表が聞けると助かります。(もしくはバーチャルな環境?)
※	今回の学会は、会場間を比較的移動しやすく、良い会場だと思いました。また、学会の規模としても、このくらいが良いと感じました。



質問16. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください

回答者番号	意見記述
※	年会の企画ありがとうございました。とても充実した内容でとても良かったと思います。研究室にお土産を買うのに、いつもポスター会場あたりで買っていた気がします。今年は見当たらずにお土産を買う時間もなかったのも、次回はお土産コーナーを作っていたらと助かります。
※	ポスター発表が他学会と比べ、盛り上がっていたと思います。
※	・狭いポスター会場で馬鹿でかいリュックを背負っている人が多いが、マナーでは防げないので注意事項として明文化してやめさせて欲しい。・3日間開催はやはり無理がある。
※	セッションの数に余裕をもたせてほしいです。聞きたいものが重なると泣く泣く諦めるという場面が多かったです。会場に人が集まりすぎると、廊下に中継を飛ばしてもらえたのはとても良かったです。これまでの開催のデータから機械学習とかで、会場の広さを最適化したほうがいいのではないかと思います。企業ブースを回る時間がまったくなかったのも、どうにか工夫してほしいなと思います。今までは、時間的余裕があったように記憶していますが。
※	学会費が高い上に科研費から支出できない研究機関もあるので、学会費を下げて年会参加費をあげて欲しい。
※	電源を各会場内で使用出来る様に設置して欲しい。
※	シンポジウム以外の発表で、他のグループのデータを発表内容に入れることは原則禁止にした方がよい。議論などで使う分にはよいが、発表者のオリジナルなデータがどの程度のものかわかりにくくなる。最近その傾向が強いと思う。
※	高圧的な態度な老人は除外してほしい無理だと思うけど
※	運営の皆様、お疲れ様でした。
※	今回の分子生物学会はレベルが高く、興味深い内容の発表が非常多かったので、大変勉強になり触発されました。内容的に、素晴らしい学会だったと思います。ありがとうございました。日本の研究レベルを維持する上で、分子生物学会の果たす役割は大きいと思いました。そのため、安易な共催ではなく、単独開催もしくは連携の試みにとどめておくべきだと思います。たとえば、学会運営側の都合(複数の学会を運営することが大変であるがゆえにまとめてしまうなど)で一括開催にしてしまうのではなく、参加者のことを考えた視点から開催形式を決定していただけることが重要かと存じます。
※	学生さんのポスター発表をきいていると、実施された研究のモチベーションが不明瞭なものが多い気がします。
※	日程がタイトで、特に夜遅くなるのが良くなかった。無理に詰め込まずにもう一日くらい日程を伸ばしたほうが良かった。また、海外からの研究者をもっと呼び、楽しんでもらうために、トークは基本英語にしたほうが良い。
※	昨今の学会事情を見ると、研究成果と発表の場のバランスが取れていないように感じる。同じ成果、または多少の進歩を年間に何回も発表するのは好ましくない。現代のIT技術の進歩を考えれば現地通しでのコミュニケーションはさほど難しいものでもなく、学会という括りに関わらず無駄なミーティングが多いと思われる。そういう意味で、共同開催といった1年間の成果を発表するよう一大会の開催は支持する。もし可能であれば、年間に研究費から支出されている出張費の調査アンケートも実施していただきたい。これが削減できれば、本来の研究に投資される金額が増えると思う。
※	ポスター賞はあってもいいと思います
※	it was a great opportunity for me by which i have learnt a lot of novel things .
※	今回の学会は、会場間を比較的移動しやすく、良い会場だと思いました。また、学会の規模としても、このくらいが良いと感じました。
※	海外の学会に比べ、質疑応答が少なかった。逆に、ごく少数のシンポジウムでは質疑応答が多すぎて、時間が無駄に延長されていた。
※	お疲れ様でした。楽しかったです。個人的には共同研究に結びついたり知り合いが増えたり、今年の分生はかなり良かったです。
※	規模が大きくなり、開催場所が限られるのが問題かも知れない
※	「第41回年会は「日本からオリジナリティを発信しよう」というテーマのもとに、横浜で開催しました」——— このテーマは大変重要だと思います。そのために今回特にどんな工夫をしたかを明示して、その評価や改善のアイデアなどを問う形のアンケートがあればよいのに、と思いました。全体的に今回の年会は充実していたと思います。今後の取り組みに期待します。
※	ランチョンセミナー券と名刺券は、名札ケースに収納できるサイズにしてほしい。あと1センチ弱、幅が小さければ、ケースに入れて常に携帯しやすかったと思う。
※	佐藤優氏の講演は大変興味深い内容であった。今後もこのような、異分野の著名人の講演を是非拝聴したい。講演時間を伸ばして頂けると幸いです。
※	色々と手探りで変えているところもありますが、以前と比べ大きくなりすぎて、出席しても一部の研究しか交流できないのが現在の分子生物学会です(アメリカの学会もそうですが)。それよりもっと細部まで踏み込めるような小さな研究会も必要であるような気がします。日本、ヨーロッパ等でも主題を限った研究会のようなものが存在します。こんな研究会のような会は、大きな学会の中には作りにくいものなのでしょうか？
※	今回、昨年からの変更で分野に適切なものがなく、その他枠でのエントリーとなった。分野を増やしてほしい。
※	今回はポスター発表に充分時間をとっていることが特に良かった。
※	幾つかのセッション(2AW-06ほか)でシンポジウム会場が狭すぎて立ち見すらできなかった
※	全般的に楽しかったです。ご尽力いただいた組織委員の皆様へ感謝申し上げます。お疲れ様でした。
※	開催者の負担が大きいのに見え、2年おき3年おき開催でも良いと思った。
※	インターネット上のアクセスがほぼできず、酷かった。
※	多くの試薬メーカーが参加していて、新しい試薬の情報が得られてよかった。
※	ポスター賞の制度を導入してほしい
※	ポスター会場での高校生発表はたいへんよかった。参加していた高校生たちにとっても励みになったことと思います。全体的にコンパクトでよい学会でした。
※	福岡大会に期待しています

質問16. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください

回答者 番号	意見記述
※	若手がオーガナイザーなどを務めたワークショップが多く、それによって全体的に活力があってフレッシュな年会だったと感じました。この試みを継続して欲しいと考えています。
※	海外の学会に行くと、日本の研究レベルとの差を強く感じます。それは研究費の違いとも言え、海外との差を埋めるのはかなり難しいと思います。しかし世界の最先端がどのような状況にあるのか、もう少し海外の研究者に発表をお願いしてみたいかがでしょうか？特に、海外の学会に参加できない研究者のためにも有用かと思えます。
※	自身の不注意が原因でもあるが、会場内で盗難被害に遭った。多くの人が参加する中、全体に目を光らせることは不可能に近いとは思いますが、是非対策をお願いしたい。
※	学会自体が大きくなりすぎていて、分野が大きく異なると見に行くこともまず無い。これでは、科学の発展に寄与できない。なるべく他分野の内容を見て、知って、自分の分野の研究に生かせるように各分野とも深い部分の説明の前のイントロとなる情報(概略)を提供し、異分野の研究者が理解しやすいようにしておいてもらいたい。イメージはイントロのイントロ。
※	組織委員会の皆さま、大変お疲れ様でした。長い出張でも飽きさせないプログラムになっていたと思います。有り難うございました。
※	日本には学会が多すぎると思われる。合併も視野に入れた方がいい。
※	Webシステムが使えるようになる時期をもう少し早めてほしい。朝が早く、夜が遅い割に午後空白時間が長いのが辛かった。
※	全体的にとっても興味のある講演ばかりだったので、3日間とても有意義な時間を過ごせました。また開催地も横浜だったため、会場付近の宿泊施設数も多く、移動も比較的容易だったためとても助かりました。一方で、展示会場の飲食店数をもう少し増やしていただけたらとても嬉しかったです。
※	神経科学会のように、年金生活の研究者用(65歳以上)の割引制度がほしい。
※	ポスターでの発表会場においては、学部生だけでなく修士生も入場無料にしていただくことが可能でしたら配慮いただきたく思いました。
※	よく知っている分野以外の講演を理解するため、日本語でのシンポジウムや講演を増やしてほしい。
※	シンポジウムやワークショップのオーガナイザー、ポスターディスカッサー毎年、特定の人ばかり役を務めていると思う。発表内容には変化が見られるのに何故だろうか？広く色々な人材を登用するように工夫する必要があると思う。
※	英語で行われるセッションが増えた印象があり、国際学会色が強くなってきたのはいいことだと思う。しかし、そのせいでコミュニケーションの質が下がることは改善すべきであると思う。実際に、原稿を読むようなプレゼンテーションのあとに日本語で質疑応答をしている場面に何度も遭遇した。時間やセッションごとに言語を分けるのではなく、講演者が好む言語で講演を行えばいいのではないかと思う。この年会ではセッションごとにどの言語で行われるかが要旨に表記されていたが、これを講演者ごとにどの言語で行われるかを表記してほしい。
※	会期中にITシステムを使えないと参加しづらい年会にはしないで欲しい。
※	久しぶりに全日程参加し、素晴らしいプログラムを楽しませていただきました。どうも有り難うございました。組織委員会の皆様、お疲れ様でした。
※	見たいポスターが見きれなかったのが、ConBio2017(生命科学系合同年次大会)の時のように日程を4日間にして、ポスター発表をもう少し小分けにしてほしいです。
※	キャリアパス委員会のランチョンセミナーでは卓越研究員制度の実態をもっと若手に伝えるべき。結局、財務省が、、、のような結論なんてツイッターレベルのことなのでその先がないなら開催して議論する意味はない。
※	日本の学会は初めてでした。多くの方々の研究をみながら私の研究にとっても役に立ち、私自身も多くのことを得ることができたとても大事な時間でした。"来年、福岡で開かれる学会も必ず参加したいという気がしました。"
※	医学や応用が主流になってくるのかも知れませんが、基礎科学も最低限のシンポジウム数とワークショップ数を今後も確保していただきたいと思えます。
※	手ぶらでポスターはとてもよいシステムだと思ったが、この恩恵を多く受けるのが海外からの研究者になるにも関わらず、海外からサイトが閲覧できないなどの不具合があった。そのため今回は国内の知り合いをお願いした。来年は改善してほしい。
※	Q10回答・若手(学生一ポスドク、独立した若手PI)対象の企画として、円卓にして、各テーブルにPI or 企業の研究者 or Editor 2人を配置。各卓で取り上げるテーマ(博士進学、ポスドク先探し、独立、キャリア、仕事と家庭、論文作成、企業就職、etc)を事前に開示し、参加者に事前に参加する卓を選んでもらう。10-15分/セッションで3-4ラウンドやり、参加者が直接、PI etcから声を聞け相談できるような企画はどうか? 参考: <a href="http://bsdb.org/2016/05/17/students/">http://bsdb.org/2016/05/17/students/</a> <a href="http://thenode.biologists.com/career-workshop-bsdbbscb-meeting-university-warwick/events/">http://thenode.biologists.com/career-workshop-bsdbbscb-meeting-university-warwick/events/</a>
※	初めて本学会に参加させていただきました。ポスター発表をするのも初めてだったのですが、広い会場に無数に並ぶポスターに圧倒されました。ポスターの前で繰り広げられる熱いディスカッション、先生たちそれぞれに色があるシンポジウム・ワークショップ、体験型の企業ブース、すべてが新鮮で刺激的でした。大変楽しませていただきました。運営ご苦労様でした。
※	個人的には、若い世代向けの「フェス」と認識しています。それならそれで、過去の年会の形式等にとらわれず、斬新な企画を毎年入れ、試行錯誤しながら続けていくのがよいと思います。私くらいの年代(40代後半)になると、ひとつの会場にずっと座ってゆっくり聞きたいという気持ちも正直あります。今年は企業ブースでいろいろな製品情報を仕入れることができたのが収穫でした。
※	海外からのスピーカーがいる場合は英語の方がベターだと感じるが、発表者が日本人のみのワークショップなどで下手な英語で発表するメリットはあまり感じられなかった。

質問16. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください

回答者番号	意見記述
※	ワークショップの構成員が仲間内で固まっている印象があり、毎年改善されていない。その点、[1PW-17]まだまだオモロイ生き物の分子生物学は良かった。(「ワークショップのオーガナイザーや講演者がそれぞれまったく初対面という全く白紙状態で企画された清々しいワークショップが面白かった」と、〇〇〇先生もツイートされていた)。また、育児中の方が研究成果とともにどうやって切り抜けてきたかも紹介するようなワークショップがあってもいいかと思う。切り抜け方は十人十色だと思うので、なるべく沢山の事例を聞きたい。
※	ポスターの時間が結構不満です。口頭発表はもちろん素晴らしい、意義のあるものだと思いますが、生の声を聞くことができるのはポスター発表だと思います。ポスター発表後にワークショップがあるため慌ただしく、ポスターも発表終了後に剥がしてしまうので、見る時間が減ってしまったのが残念です。もちろん、お昼にすることでのメリットもたくさんあるのだと思いますが、個人的には少し残念です。
※	ポスターが多すぎる。発表については採択を判断し、優れた物のみ発表する様にするのが良いと思う。ライフ系以外でもそのようになっているところもある。海外ではそれが一般的。
※	あまり自由なディスカッションが少なくなってきたように思われます。30年前には、意識的に演者紹介でも「XXXさん」という紹介に統一していましたが、最近では「XXX先生」という表現が多くなっているようです。医学部出身の医者の参加が多くなってきたことが原因かもしれませんが、このことが最近の分子生物学会の雰囲気の元気の無さを象徴しているように思います。
※	年会は何のためにやるのかの理念が希薄となっている。まるで、シンポジストのためのものとなっている。本来は、会員の発表の場であるべきなので、会員の口頭発表および教育講演を主体とし、シンポジウムやワークショップは大会長が厳選したものにす時期が来ていると思う。必要であれば、別の時期に年に3-4回は、特別企画を2日間ぐらいで行ない、専門家だけではなく、その分野を勉強する必要に迫られた人もそこに出席すれば、全てがわかるようになれば、メリハリが効いていいものになると思う。
※	ランチョンセミナーで途中で退出するのは、弁当目当てのような感じで、提供企業の方に失礼ではないでしょうか。途中退出予定のある方は参加ご遠慮下さいとか、途中退出(トイレ除く)禁止にしたほうがよいと思います。
※	規模のわりに年々活気がなくなっているように感じる。一つの分野の発表を複数に分散していることのデメリットかもしれない。
※	とても良く構成されていると思いました。ただ、講演者、聴講者ともほとんど日本人だけの英語セッションで、講演者の英語力がやや不足しているために言いたいことが伝わらず、残念に感じることはありました。
※	研究倫理問題については、フォーラムや特別シンポジウムではなく、ワークショップの形式で真面目に学問的に討議した方が良いと感じた。
※	活動が活発で評価できる。新たな試みも取り入れられており、常に研究の流れを見て活動している事がうかがえる。今後とも、この姿勢で取り組んでいただきたい。
※	プレナリーセッションがなかったのが、大変残念でした。予算や企画運営の点からも、合同年会(ConBio形式)に統一すべきではないかと思えます。そうしないと盛り上がりません。
※	Plenary lecture や、特別講演など、学会に参加しなければ聴けないような講演が企画されなかったのは大変残念でした。次回の年会では、Plenary lecture や特別講演の開催を希望します。
※	第41回年会では、似た分野の研究内容を聞くことで、自分の研究分野に関連する知見をさまざまな視点から考えることができた。また、私は一般演題でポスター発表を行ったが、私の研究に興味を持ってくれて、かつ近い分野の研究をされている方と討論することができた。そのため、自分のやってきた研究を他者の視点から考えなおすことができ、有意義なディスカッションができたと思う。
※	特に無し
※	会場によっては狭いこともあったので、全体的に広い会場が多い方がよかったと思った。
※	部屋が聴衆であふれた場合の対応策は、もっと綿密に練ったほうが良いと思う。廊下がうるさかったり、モニター前で陣取っていたり、にもかかわらず空席があったり、入口付近でトウセンボされたり…。どれもこれもせっかく面白い発表をしている発表者に対して申し訳ない態度で、これらを学会として本腰入れて対策しないのは失礼だろう。
※	今年がどうだったのか知りませんが、ランチョンセミナーでいい年をした方が、お弁当目当てで、セミナーを全く聞いていないというのを多々見かけます。まあ、学生さんは、お金がないから仕方ないかと思えますが、PIと思われる方がやっている、どうも一般的道徳、配慮に欠けるのではないかと思います。極端に言えば、見苦しいです。個人の良識の問題ではありませんが、何とかならないものでしょうか。
※	だんだん発表者数やセッションが減ってきて寂しく思う。合同学会や、若手をもっと応援するようなプログラムと、一流どころの融合的な学会が望ましい。
※	お疲れ様でした。今後ともよろしく願いいたします。
※	今回、大学生を11人連れて行った。大学生は無料なので助かり、またポケット版プログラムが彼らのために役立った。今後、若手を育てるために学部学生、高校生も巻き込んでいくと良いと思う。高校生のポスターを楽しみにしていたが、時間が限られていたように見ることができずに残念だった。
※	さまざまな分野の話が聴けてよかったです。これが分生の魅力ですね。
※	ランチョンセミナーの企業の案内が悪く、どこで待ったらよいかわからない人が違う列に並んでしまっていて、ホールで混乱していた。各企業、きちんとホールで道案内をすべきである。今回は会場で四肢が不自由な方の参加をよく見かけた。通路も混み合い、少し座って休めるような箇所も少なかったため、杖をつきながらの参加は大変だったと思う。しかし、四肢が不自由なことで学会参加を諦める必要はなく、もっと参加しやすく、過ごしやすくするように会場設営を工夫すべきだと思う。